



学校だより

みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子

南神大寺小学校

9月号

令和5年8月31日



みなかん HP



「やってみよう!」を育てる

校長 岩田 和也

38日間の夏休みが終わりました。久しぶりに子どもたちの元気な声を聞き、笑顔を目にすることができうれしく思いました。保護者の皆様には、夏休み中の宿題をはじめ、様々な取組にご協力いただきありがとうございました。とても暑い夏で大変だったと思います。大きな事故やけが等なく安全に過ごせましたこと、何よりうれしく思います。

初日、テレビ朝会を終え、1時間目の時間に各教室をまわり、子どもたちの表情を目にしながら、夏休み前の朝会で、私が子どもたちに向けて伝えたことを思い出していました。それは、家庭や地域で過ごす時間の中で、「やってみよう!」という気持ちをもって、長い休みにしかできないことに取り組んでみてほしいと話したことでした。

多くの子どもたちが「やってみよう!」と取り組み、休みにしかできない経験を積んで、さらに学校での活動を楽しみに、再会を待ちわびてくれていたことと思います。しかし、私自身、子どもたちは夏休みも終盤になるにつれて「あ～、あと〇日しか休みがない…」「あ～、まだ宿題が…」といつまでも「やってみよう!」という気持ちが自分からもてず、心が重くなるようなことが多かったため、目の前にいる子どもたちのなかには、そんな気持ちを抱いていた子どもがいるのではないかと少し心配にも思うのでした。

学校では、授業のなかで子どもたちの「できた」「楽しい」を増やして、「やってみよう!」を育てていきます。そのための授業準備や指導の工夫に日々、職員は努めています。そして、子どもたちが「やってみよう!」の気持ちを安心してもてるような、「聴き合える」より良い関係作り、仲間づくりを広げていけるように支援しています。学校での取り組みの先に、家庭や地域において、子どもたちが「やってみよう!」という気持ちを抱くことにもつながるのです。子どもが自ら計画的に取り組むを進めたり、試行錯誤しながら課題を解決していったりするためには、学年に応じて大人の支援も必要であり、個人差もあります。お子さんのご家庭や地域で過ごす様子はいかがだったでしょうか。進んで「やってみよう!」という気持ちをもてる子ども、「やってみよう!」をもつために大人の支援が必要な子ども、引き続き、学校生活のなかで「できた」「楽しい」を増やして、「やってみよう!」の気持ちを育てていきます。まずは、子どもが今、何を感じ、何を求めているか、子どもの声を聴くところから夏休み明け始めていきます。

学校では夏休み明けのこの時期、特に丁寧に子どもの様子を見ていきます。ご家庭でも体調面を含め、お子さんの様子についてご留意いただき、ご心配・ご不安なところがあれば、担任や児童支援専任までご連絡ください。天候が不順だったり、まだまだ暑い日が続いたりすると思いますので、保護者の皆様も体調にはくれぐれもお気をつけください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。